



リニューアルされた八王子ツインタワービルの壁面内照式サイン

ビル内照式サインLED化し電力削減

八王子ツインタワービル（東京都八王子市）の壁面内照式テナントサインの光源が、蛍光灯からLEDに切り替えられ、8月23日から再点灯を開始した。これは、同ビルを含め、多くの商業施設やホテルを経営し、消費電力削減を目指す施主の意向により工事が実施されたものだ。

元請け企業・施工は、電気工事を中心とした業務を行う建設会社・(株)日鉄エレックス。設計は(株)日鉄エレックスとパナソニック電工(株)。光源製品は、パナソニック電工(株)の「EVERLEDS」の看板用ワイド配光

型LEDユニットが使用された。

施主の永和不動産(株)は、施設内のダウンライトやシャンデリア照明とともに看板についての省エネ施策も積極的に実施。今回のサイン光源LED化は、電力削減効率、初期投資額が償却に至る時期などについての(株)日鉄エレックスによるシミュレーション提案を評価し、採用に至った。

(株)日鉄エレックス 東京支店の石井廣支店長は、「今回の工事は、企画から設計・施工・メンテナンスまで一貫対応できる総合エンジニアリング企業である当社と、ブランド力のある大手総合電気メーカー双方の利点を活かしてコラボレートした案件だ。



施工時の様子



パナソニック電工(株)「EVERLEDS」
看板用ワイド配光型LEDユニット

サインの照度、光ムラ解消、コストという3点のベストマッチングを目指して取り組んだ。LEDユニットの配置は、電力削減を優先し、明るさを以前よりもやや抑えた設計を行った。その結果、自然で見やすい表示面となり、施主からも高い評価を得た」と語る。

内照式サイン製作物は、LEDユニットを据え付けやすいよう、スチール製のバー状光源取付けレールを用意し、施工の簡易化が図られている。現場での内照式サイン取付け施工は、高さ40m近いビルのため、40m高所作業車を使い、人通りの少ない深夜時間帯に行われた。